

## 君も目指せ！明日を担う女子ゴルファーの為に第2回グリーンヒルカップ

### 「第2回 GREENHILL CUP LADIES OPEN」開催

2023年6月6日（火）～9日（金）までの4日間、新潟県のグリーンヒル長岡ゴルフ倶楽部を舞台に、「第2回 GREENHILL CUP LADIES OPEN」が開催される。概要は下記の通り。

- 主催者 グリーンヒル長岡ゴルフ倶楽部
- 賞金総額 4,000,000 円
- 優勝諸金 1,000,000 円
- 参加資格 JLPGA プロテスト未受験者及び未合格者並びに昨年の大会で上位10以内の選手
- 参加人数 80名（当初60名）
- 応募方法 <https://aac-18.com/ghclo>（WEBサイトのエントリーフォームから）

ところで記念すべき第1回大会となった昨年は、どのような試合だったのだろうか。少しだけ振り返っておきたい。

主催者側による手探り状態の中で開催された昨年は、49名が参加し初代優勝者として大会史を飾ったのは、幡野夏生（ハタノ ナツキ=25歳）選手だった。同選手は4日間トータル9アンダーと言う素晴らしいスコアで、2位選手へ3打差をつけ優勝を勝ち取っている。3位選手が2アンダーだった事を見ても、幡野選手の9アンダーが如何に冴抜けていたかが理解出来る。

天候は最終日の早朝に、一時的なわか雨に見舞われるが、総じて言えば大会期間中、選手達がネガティブなイメージを持つ事の無い、ある意味大会を祝福してくれているかの如く快晴であった。

< 第1回大会優勝者\_幡野夏生 選手 >（提供：大会事務局）



## 優勝者・幡野夏生選手のコメント

コースメンテナンスが素晴らしく、またピンポジションが厳しいところに切っており、正しくトーナメント開催に相応しいセッティングだったと思います。

スコアは運が味方してくれた様にも思いますが、4日間緊張した状態でプレー出来たのは、プロテストにつながる経験が出来たと思います。

なお大会2日目には13番ホールにて今綾奈（コンアヤナ）選手が、ホールインワンを記録し、大会から特別賞が贈られた。最終日の表彰式で緊張した面持ちの今選手は、「この試合へまた出たい」と素直な気持ちを受賞スピーチとして口にしたのだが、この発言は大会主催者の開催趣旨とは異なるものの、如何に素晴らしい大会であったかを物語っていた。

## 開催の経緯

そもそもこの大会は、どのような主旨で開催されているのだろうか。

当該大会は、一般社団法人日本女子プロゴルフ協会（以下 JLPGA）のプロテスト合格へ向け、未合格者を対象に開催されており、プロテストでなかなか実力を発揮出来ない選手の背中を押す、その様な役割を持たせたものなのだ。

「来年はこの大会へ出場しなくても良い様に、今年のプロテストに合格して」、此れが主催者の親心ならぬ偽ざる本音なのだ。この様な意図が明確な大会、この開催へ至った経緯については、群馬県の赤城カントリー倶楽部（以下赤城 CC）を経営する三共観光開発株式会社の相川由紀夫社長（以下相川社長）の話を、紹介しなければならない。

### < 三共観光開発株式会社・相川由紀夫社長 >



©Yoshio Oono

相川社長はかつてプロゴルファーとして栃木県の某ゴルフ場へ所属していたのだが、そのゴ

ゴルフ場オーナーから熱心なお誘いを受け、若くして同ゴルフ場経営に取締役として携わる事になった。この為に試合からは遠ざかってしまったのだが、反面「女子プロを育てたい」相川社長の思いは、この時芽生えたとも言える。

栃木県のゴルフ場を離れ赤城 CC 社長へ就任後は、「女子プロ育成」への思いに一層拍車がかかって行った。ゴルフ場経営と女子ゴルファーの育成は車の両輪の如く、相川社長にとって切っても切れないテーマで有り、その思いが単なる夢では無く現実的課題になろうとしていた。

この思いを数年前に新潟県のグリーンヒル長岡ゴルフ倶楽部の樋熊隆治（ヒグマ リュウジ）・理事長へ話したところ、「素晴らしいですね、それではその大会は当倶楽部でやりましょう」と、トントン拍子で話が進み開催へ漕ぎつける事になった。それが昨年 2022 年の第 1 回大会である。

#### < グリーンヒル長岡ゴルフ倶楽部 15 番ホール >（提供：大会事務局）



プロテスト未合格者とは言え、アマ資格を放棄し活動している、いわゆる女子プロは多い。その様な彼女達の悩みを聞くと、やはり試合への渴望で有り、それも 4 日間大会での経験を積み、息切れしないスキルを身に付けて行きたいと言うものである。この様な彼女たちの声を実現させるべく、相川社長が樋熊理事長とタッグを組み、グリーンヒル長岡ゴルフ倶楽部が主催者にまわる事で、当該大会は実現したのである。

そして今年第 2 回目大会を迎える訳だが、この 4 日間大会の経験を活かし、是非、プロテスト合格者の笑顔を見てみたい、「来年この大会へのエントリーは出来なくなりました」、この連絡を早く聞きたい、相川社長と樋熊理事長の思いは高まる。

2023 年 4 月 28 日

文\_\_大野良夫

© Yoshio Oono

日本ゴルフジャーナリスト協会 会員